



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第10号

きらきらEyeランド
JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

暑くて疲れた稲に潤いを！ 徹底した水管理で品質向上を！！

今年の梅雨明けは7月29日とみられ、平年より4日遅れましたが、梅雨明け以降は平年を上回る高温で経過し、出穂期については予想より1日程度早まりました。

仙台管区气象台の1カ月予報（8月4日発表）によると、今後1カ月は高温が続くと予想されていることから、天候に対応した水管理を行い高品質米生産に努めましょう。

また、斑点米カメムシ類については、多くの地点で確認され、発生量もやや多い状況です。葉いもちについては、葉色の濃い圃場や過繁茂の部分で確認されています。圃場の見回りをを行い、病害虫の発生状況を確認し防除の徹底を図りましょう。

◎出穂期（平坦部） *コシヒカリ、つや姫については予想出穂期

どまんなか	ひとめぼれ	はえぬき	コシヒカリ	つや姫
7/30~8/2	8/2~8/4	8/3~8/5	8/11~8/14	8/11~8/14

◎7月29日現在のJA展示圃生育状況 ()内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色
どまんなか	92.3 cm (104)	483本/m ² (96)	12.8 (+0.2)	37.1(+3.6)
はえぬき	77.1 cm (101)	509本/m ² (98)	12.4 (±0.0)	37.0(-0.9)
ひとめぼれ	81.2 cm (100)	451本/m ² (96)	12.4 (-0.2)	37.0(+1.2)
つ や 姫	76.6 cm (96)	460本/m ² (103)	12.5 (+0.1)	35.7(-0.5)

※葉色は葉緑素計（SPAD）の測定値による。

7月29日現在の生育の状況は、草丈が並~やや長く、茎数は平年並み、出穂期は平年よりやや早めとなっています。

技、其の一 高温による品質低下を防ぐ為、徹底した水管理を！

出穂期以降も高温が予想されることから、胴割粒・乳心白粒による品質低下が懸念されます。当地区では、過去に右枠のような高温による品質低下を経験しています。

収穫期まで気を抜かず、天候に即した水管理で品質向上に努めましょう。

過去の高温年での

酒田飽海地区の一等米比率	
平成 6年	45% (乳白粒等の多発)
平成11年	6% (乳白粒等の多発)
平成18年	87% (胴割粒の多発)
平成22年	75% (乳白粒等の多発)

《登熟期の水管理の基本》

出穂後日数	圃場の土壌水分保持の目安
~20日	くぼみ、作溝等に水が残っている程度。それ以上は乾かさない。
21日~30日	足を入れて、かかとの部分に水がにじみ出る程度。
31日以降	黒乾亀裂（一部ひびが入る程度）。※白乾亀裂までにしなないこと。但し、刈取り間近になったら、作業に支障のない程度まで乾かす。

◇出穂後20日間は玄米形成に最も重要な時期です。2湛2落（間断灌水）を基本としながら、常に飽水状態の維持を念頭に、収穫時まで根の活力維持に努めましょう。

◇庄内地域は海洋性の気候により、日中と夜間の気温差が小さい地域です。高温時は各地区の給水規則を守り夜間灌水を徹底し、日中と夜間の温度較差をつけて登熟を高めましょう。

◇高温、強風時（フェーン現象）には、稲体の消耗が大きくなるので、事前に湛水し稲体を保護しましょう。

◇完全落水は出穂から31日以降を目安とします。早期落水は登熟を妨げますので、最後まで必要な水を与えましょう。

技、其の二 斑点米カメムシ類注意報発表！

① 斑点米カメムシ類

7月29日のすくい取り調査でも、斑点米カメムシ類の発生が多くの地点で確認されています。

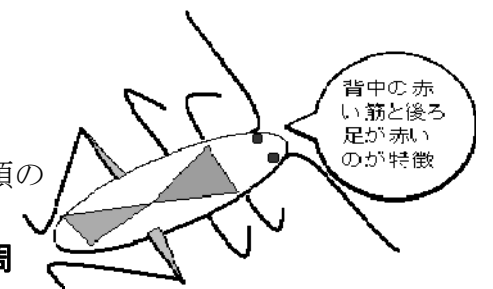
カメムシ被害防止の為に、出穂から3週間は圃場周辺の草刈りを控え、水田内への進入を防ぎましょう。

② 穂いもち

穂揃期を迎え、穂いもち（特に穂首いもち）感染の危険性が最も高い時期を迎えています。

上位葉に葉いもちが見られる圃場では、穂いもちの発生が懸念されますので、圃場を見回り、追加防除を実施しましょう。

特別栽培米については、営農指導員へご相談下さい。



アカスジカスミカメ 体長：5~6mm
最近急増している種。ヒエ、ホタルイの発生が多い圃場で多発生傾向！

技、其の三 適期刈取りに向けて！

今年の登熟期間中の気温は平年より高く推移すると予想されています。このため、刈取り時期が平年に比べて早まるのが想定されますので、早めの機械点検等を心掛け、適期刈取りに向け準備を行いましょ。

技、其の四 大豆の管理はこまめな巡回と適期防除を！

今年の大豆の開花期は、平年並みとなっていますが、は種時期により開花期に差が見られます。現在の生育は草丈・主茎長・主茎節はやや少ない～平年並みの状況です。

今後、高温の日が続くとジャガイモヒゲナガアブラムシの急激な発生が予想されますので、こまめな圃場巡回と早期発見・早期防除に努めましょ。

品 種	リュウホウ	エンレイ	里のほほえみ
開花期	7/24頃	7/27頃	8/1頃
防除適期	紫斑病	開花期25日後～35日後	
	マメシクイガ	1回目 8月25日頃 2回目 9月5日頃	
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	8月上旬～中旬	

- ※紫斑病防除は莢にも薬剤がかかるよう丁寧に散布ましょ。
- ※マメシクイガの発生は毎年8月末～9月上旬です。適期防除を行いましょ。
- ※アブラムシ防除は葉裏にも薬剤が十分かかるよう散布ましょ。
- ※防除薬剤につきましては、「大豆生産基準」に基づいた指定薬剤がありますので必ず営農指導員に相談の上、行ってください。

米生産履歴記録書の提出を忘れずに!!

収穫前までに米生産履歴記録書をすべて回収し、記載内容の確認をさせていただきます。指定された期日まで生産履歴記録書を記入の上、提出下さる様お願い致します。

しっかり育てよう！庄内みどりのつや姫

つや姫情報コーナー

- **出穂期には湛水管理を！**
出穂期は、特に水分を必要とするため、湛水管理としてスムーズな開花受精を促しましょ。出穂期以降は間断かん水（2湛2落）で登熟をサポートましょ。
- **登熟期の葉色診断で玄米粗タンパク値のチェック！**
穂揃期はSPADで「35以下」、出穂20日後は「32以下」が目安です。
- **落水時期は出穂後30日以降に！**
早期落水は品質の低下を招きます。落水時期は、出穂後30日以降とましょ。

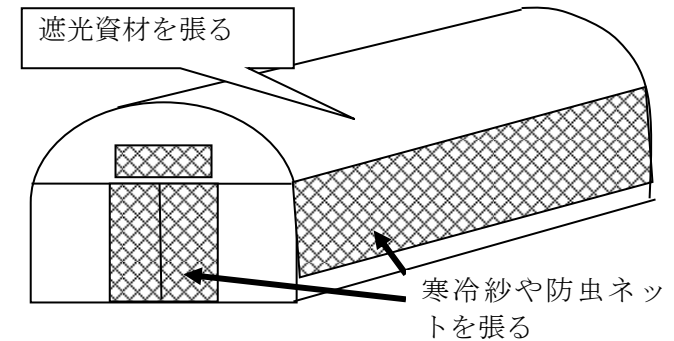
秋出しストックの栽培暦(直まき)

栽培のポイント

- ・ は種8～10日後と18～20日後、2回に分けて八重鑑別を行う。
- ・ 発芽適温は20～25℃で、それ以上（熱帯夜が続くよう）だと発芽率が悪くなる。
- ・ ハウスサイドを巻き上げ、裾ビニールも可能な限り引き下げて通風を確保し、温度の低下を図る。
- ・ コナガがつきやすいので防除を徹底すると共に、寒冷紗等で進入防止に努める。
- ・ 冬季は最低温度5℃を確保し、夏季は日中20℃以下を目標に温度管理を行う。

○は種準備<ハウス準備>

コナガ進入防止のため、開放部（サイド、妻面）に寒冷紗を張る。は種3日以上前から遮光率30～50%の遮光資材を張り、地温を下げしておく。



<土壌消毒>

立枯病等の土壌病害防除と雑草防除のために、ダゾメット剤または土壌還元消毒等を行う。

○は種 ☆重要なポイント☆

ほ場はできるだけ均平にし、覆土は厚さを揃えて5mm以内とする。発芽を揃えることが八重鑑別成功のポイント。

基肥	ロクゲ肥料 70日タイプ 有機&イト 苦土重焼燐 苦土石灰	60kg 100kg 20kg pHに応じて
追肥	有機&イト	60～80kg

栽培密度 条間15cm×株間13～15cm、6～8条植え。

<温度管理> 発芽適温：20～25℃（暑いと発芽不良） 発芽日数：3日
ハウス換気の徹底：通風良くして涼しく管理 遮光：は種後7～10日程度は温度低下、乾燥防止のために被覆する（子葉が完全に展開したら外す）。

<水管理> は種～発芽：乾かさないうにかん水（毎日2～3回程度）。子葉展開～は種1ヶ月後：土壌表面が乾いたら灌水（毎日1～2回程度）。

○その他の管理 <追肥>

は種後35日ころ、有機&イト等の肥料を10坪あたり1～2kg追肥し、条間を軽く中耕する。

<フワリネットの設置> 草丈15～20cmのころ、15cm×8目、18cm×7目のネットを張る。支柱の高さ10cm程度のところにマイカー線を張る。生育に従ってネットを上げる。

<摘心> スプレーストックは、頂花が色づいた頃に摘心し、分枝させる。2～3回に分けて順次行う。

★次号の発行は9月12日です！